

**金沢市立内川中学校**  
**平成 24 年度後期 学力向上の取組**

**1 学力の現状分析・検証・今後の取組**

(H24 年度石川県基礎学力調査及び全国学力・学習状況調査の結果をふまえて)

	学力の現状分析	前期までの取組の検証	後期に向けての取組
国語	<p>&lt;基礎・基本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きの習熟については概ね良好である。</li> </ul> <p>&lt;活用・応用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思いつきの発言・発表をする生徒が少なからずいる。</li> <li>課題にそって自分の考えをまとめ、長文で記述する力が十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字テスト・再テストを継続的に行った結果、定着が見られた。</li> <li>根拠を明確にして意見を述べさせるようにしてきたことで、学年が上がるほど論理的思考力が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字は、毎時の漢字練習を継続していく。</li> <li>発表の際は、根拠を挙げて述べさせる。</li> <li>書く活動を多く取り入れる。</li> </ul>
社会	<p>&lt;基礎・基本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学力は概ね身につけている。</li> </ul> <p>&lt;活用・応用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料を読み取り、自分の考えを説明するなどの表現する力が十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの活用や作業学習をとおして、基礎的事項を繰り返し学習することができた。</li> <li>資料の活用力は、教師の支援をもとにした気づきはあるが、自ら思考判断する力は、まだ十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートや作業学習に継続して取り組み、学習内容の定着を図る。</li> <li>生徒相互の発表しやすい環境作りを行い、発表の場を多く設けることで、思考力・判断力・表現力を育てる。</li> </ul>
数学	<p>&lt;基礎・基本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学力は概ね身につけている。</li> </ul> <p>&lt;活用・応用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思考力を必要とする問題や、記述問題を解く力が十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年より早く、5月から授業開始時の計算プリントに取り組んだことで、概ね全ての単元の基礎的な計算の復習ができた。</li> <li>活用力をつけるため、自分の考えを述べる場面を多く設定するように心掛けてきたが、あまり成果としては現れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算プリントは継続し、生徒の習熟度に合わせて対応できるようにする。</li> <li>特に図形の論証などを中心に、自分の考えを述べる機会を多く作り、論理的に説明できる力を育てる。</li> </ul>
理科	<p>&lt;基礎・基本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現象を実生活と結びつける感性、現象を科学的に考える力に課題が見られる。また学習の基盤となる「表現し伝える力」の育成が必要である。</li> </ul> <p>&lt;活用・応用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知識の習得においては概ね良好であるが、活用力については知識面に比較して力が十分でない生徒が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数グループの実験・観察を多用し、経験値を高める取り組みを行い、自然現象を科学的に考える姿勢を培った。</li> <li>「表現し、伝える力」の育成をめざし、レポート作成、スケッチ活動、夏季休業中の課題等を通して表現能力、文章能力の向上を図ってきた。まだ十分とはいえないが、要点をしっかり伝える力が向上している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1, 2年生：研究活動を取り入れ「学習したことをまとめ、伝える力」の育成に引き続き重点を置く。</li> <li>3年生：活用力の向上を図るため、課題学習を積極的、効率的に取り入れ、学習の密度を高める。</li> </ul>
英語	<p>&lt;基礎・基本&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学力は概ね身につけている。</li> </ul> <p>&lt;活用・応用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに応じた英文や、正しい文法を用いた英文を作る力が十分とはいえない。</li> <li>口頭では基本的な語順理解はできているが、英作文では、正確に記述するための書く力が十分とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表場面では、クイズ形式にして生徒相互に考えさせるなど、展開を工夫することにより、普段は発表に消極的な生徒も発言し、積極性を引き出すことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数活動の利点を生かし、内容に応じた発表の場や体験の場を設定し、生徒が意欲的に英語を使おうとする授業展開にする。</li> <li>口頭で練習した文を参考に、自作の英文を作る活動を設け、英作文に対する抵抗感をなくす。</li> </ul>

## 2 学校としての共通した取組

### (1) 小学校との連携 ～学習基盤の定着～

ア 本校は内川小学校との併設校であり、共通の「学習基盤」を設定して、＜授業への準備＞＜読む力＞＜聞く力＞＜伝える力＞＜学び合い創る力＞について、共通認識を持ちながら、教科ごとに生徒の発達段階に応じた育成に努めている。

イ ＜授業への準備＞については、学習規律、家庭学習の定着などについて重点的に指導し、7月と12月に生徒・教職員・保護者対象にアンケートを行い、生徒の意識向上や、教師の指導改善につなげている。7月に行ったアンケートから見えた課題について次のように行っている。

(7) 学習規律は概ね良好であるが、若干ルーズになる面も見られる。少人数で目がいきとどき、生徒指導上の問題が少ないことから、馴合いが生じ指導がおろそかにならないよう、共通理解を図って指導するよう心がけている。

(4) ほとんどの生徒が宿題には取り組んでいるものの、学校として目標としている「学年+1時間」の家庭学習の時間には達していない生徒が半数であった。各学級での取り組みの共有化、家庭への協力の呼びかけ、自習ノートや問題集等を利用しての学習などを行い、家庭学習の定着に努めている。

### (2) 基礎基本の活用 ～少人数を生かした学力向上を目指して～

ア 1の項でも表れているように、今年度は＜基礎基本の定着・活用のための取組＞と＜少人数を生かした表現活動や体験活動の機会を取り入れた授業展開の工夫＞を共通の取組とし、各教科で研究テーマを設定し、以下のように行っている。

	教科の研究テーマ	基礎基本の定着・活用のための取組	少人数を生かした表現活動や体験活動の機会を取り入れた取組
国語	基礎基本の定着と活用力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ごとに漢字ノート1ページの家庭学習を課し、授業のはじめに点検する。</li> <li>月例漢字テスト・再テストを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設問には全員に発言の場を設定する。</li> <li>「書くこと」「話すこと」「聞くこと」の単元は、全員に発表の場を設定する。</li> </ul>
社会	基礎基本の定着と関心を高める授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの活用や作業学習を通して、基礎基本の定着を図る。</li> <li>資料を活用し、事象を多面的多角的な目で捉えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの疑問や考えを書く場面、発表させる場面を意図的につくる。</li> <li>生徒の気づきや思考を深められるような発問を設定する。</li> </ul>
数学	計算力などの基礎基本の定着のための教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始時に5分間計算プリントに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題などで、全員が自分の式や計算を板書し、互いの考え方を参照し、間違いやすいポイントなどを確認しあう。</li> </ul>
理科	理科学習環境の整備と少人数・自然を生かした理科学習の充実～感性と実験や観察の基礎・基本を身につけるために～	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとにまとめの時間を確保し、振り返りを確実に行う。</li> <li>実験や観察の技能、学習したことを伝えるための表現方法の習得のために、観察スケッチ、実験レポートの作成を重点的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人単位の実験、発表、レポート作成など個人での活動を極力増やした学習活動を行う。</li> </ul>
英語	基礎基本の定着と自己表現ができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本文を覚え、その文にいろいろな文をあてはめて言えるように練習させる。</li> <li>毎時間、前時の復習を取り入れながら、学習した内容に慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めに声を出す練習として、単語でビンゴなど、楽しみながら学習する工夫を行う。</li> <li>週の初めに、先週末にしたことを英語で発表し合う。</li> </ul>

イ 前期は、どの教科においても取組に対する成果が表れており、引き続き工夫しながら取り組んでいきたい。しかし、少人数の弊害として、話し合い活動での考えの深まりや、意見の多様さをどのように引き出していくかということが今後の課題となる。